

● 奨励賞 ●

三つの「わ」

せきぐち はると
関口 陽大



とみおか
富岡市立富岡中学校1年(群馬県)

「五輪サイトの北方四島表記を批判、ロシア、対日攻勢を強める」昨年の8月、ニュースを見ていたとき、こんな見出しが目に入りました。「一体何が起きているのだろうか」僕はそう思いました。内容は、東京五輪の公式サイトに北方領土が日本の領土として示されていることを、ロシアが批判しているというものでした。僕はこれまで、北方領土問題についてあまり関心を持ちませんでした。今回は違いました。

この前の夏休み、僕は高崎市で行われた「北方領土返還運動青年交流会」に、一泊二日で参加しました。その中で、北方領土問題についてたくさん勉強することができました。北方領土には、既にロシアの人たちが居住しています。日本側の領土であると主張する日本と、そうではないと主張するロシア。この問題は本当に難しい問題です。

1945年8月15日、日本は、第二次世界大戦に敗戦しました。当時、日本とソ連(現ロシア)は、日ソ中立条約を結んでいましたが、ソ連は日本の領土であった択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島を一方的に占領してしまいました。そのため、北方領土は、今も日本の大切な領土として、ロシアに返還するよう求めています。歴史的な経緯を見れば、中学生である僕にも、ロシアが勝手に奪ってしまったことがよくわかります。しかし70年以上の歳月を要しても解決しないこの問題は、どうすれば解決するのでしょうか。

父の職場では、みんなが、三つの「わ」を大切にしているそうです。一つ目は、対話の「話(わ)」、二つ目は、平和の「和(わ)」、三つ目は、リングの「輪(わ)」だそうです。

僕は、この話を聞いて、北方領土問題の解決には、この三つの「わ」が必要なのではないかと感じました。何でも話し合える関係を築くこと、互いによい関係を保つこと、そして、互いに協力し合うことの三つです。

まず一つ目の対話の「話(わ)」です。北方領土問題の

勉強会で、日本の総理大臣とロシアの大統領が、この問題について27回も話し合っているということを知りました。こんなに話し合っているのに、なかなか解決しないこの問題に、僕は驚きました。北方領土のすべてを一度に返すことが難しければ、少しずつ返還していく方法もあると思います。これからも粘り強く、話し合いを続けていくことが僕は必要だと思います。

次に二つ目の平和の「和(わ)」についてです。平和の「和(わ)」という字には、「和(なごむ)」「仲がよい」という意味があります。以前、ニュースを見ていたとき、ロシアの大統領が、秋田犬を愛犬としているというニュースを見ました。そのとき、とてもロシアが身近に感じましたし、心が和む映像でした。僕たち日本人は、もっとロシアという国に興味を持ち、その人たちの生活習慣や、どうものごとを考える人たちなのかを知る必要があると思います。そのうえで、粘り強く、北方領土の返還について訴えていく必要があると思います。

最後に三つ目のリングの「輪(わ)」についてです。この問題を解決するためには、日本とロシアだけでなく、ほかの国が手を取り合い、協力する必要があると思います。

「協力」という字には、力が四つも使われています。協力には「力」が必要なのです。僕たちの国が持つ力を正しく使い、北方領土で電気やガス、水道などの設備で活躍すれば、どちらにとっても、いいことがあるように思います。

中学生の僕ができること、それは、北方領土だけでなく、中学校の社会科の授業なので、国と国との問題について、もっと勉強することです。北方領土について、もっと理解を深め、関心を持ち、これからも勉強していきたいと思っています。いつの日か北方領土が日本に返還され、平和の象徴になるとよいと僕は思っています。